

令和5年度第3海兵機動展開部隊との共同訓練
(アイアン・フィスト24)について

令和6年1月
防衛省

令和5年度第3海兵機動展開部隊との共同訓練 (アイアン・フィスト24) について

【演習の目的】

陸上自衛隊と日本に駐留する米海兵隊が、それぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する場合における相互連携要領を実行動により演練し、共同対処能力の向上を図ることを目的としております。

【演習の沿革】

- 本演習は、平成17年度から令和3年度までの間、米国キャンプ・ペンドルトンで米第1海兵機動展開部隊との共同訓練として実施されてきました。
- 令和4年度は、日本国内において米第3海兵機動展開部隊と訓練を実施しました。

【演習の実施場所及び期間】

(※) 本期間の前後に、それぞれ約1週間で準備・撤収を実施します。

令和6年2月25日(日)～3月17日(日)までの間、長崎県、熊本県、鹿児島県及び沖縄県の下記の場所及び期間における訓練の実施を計画しています。

- 長崎県：2月25日(日)～3月3日(日)
相浦駐屯地
- 熊本県：2月25日(日)～3月2日(土)
高遊原分屯地
- 鹿児島県：2月27日(火)、3月10日(日)及び11日(月)
沖永良部島
- 沖縄県：2月25日(日)～3月17日(日)
キャンプ・ハンセン等の沖縄県内の在日米軍施設

【演習の内容】

- 日米共同での指揮機関訓練【相浦駐屯地及び沖縄県内の在日米軍施設】
- 航空機を用いた日米共同での統合火力誘導訓練【沖縄県内の在日米軍施設】
- 着上陸訓練
 - ・ 海上機動（偵察用ボート（CRRC）、水陸両用車（AAV）、ホバークラフト（LCAC）及び小型舟艇（LCU））による日米共同での着上陸訓練【沖永良部島、キャンプ・ハンセン等】
 - ・ 空中機動（日：CH-47、米：CH-53）による日米共同での着上陸訓練【相浦駐屯地、沖永良部島、キャンプ・ハンセン等】
- 着上陸した部隊による日米共同での陸上戦闘訓練【沖永良部島、キャンプ・ハンセン等】
- 小火器を用いた日米共同での実弾射撃訓練【キャンプ・ハンセン】
- 日米共同での兵站・衛生訓練及び水際障害処理訓練【沖縄県内の在日米軍施設】

場 所	相浦駐屯地（長崎県）	
実施事項	○ 日米共同での指揮機関訓練 ○ 日米共同での着上陸訓練（空中機動）	
場 所	高遊原分屯地（熊本県）	
実施事項	日米航空機の整備・展開拠点	
場 所	沖永良部島（鹿児島県）	
実施事項	○ 日米共同での着上陸訓練（海上・空中機動） ○ 日米共同での陸上戦闘訓練	
場 所	キャンプ・ハンセン等の沖縄県内の在日米軍施設（沖縄県）	
実施事項	○ 日米共同での指揮機関訓練 ○ 日米共同での着上陸訓練 ○ 日米共同での陸上戦闘訓練 ○ 日米共同での実弾射撃訓練 ○ 日米共同での兵站・衛生訓練 ○ 日米共同での水際障害処理訓練 ○ 日米共同での統合火力誘導訓練	

沖永良部島の使用について (1 / 2)

沖永良部島及びその周辺海空域において、日米共同の着上陸訓練及び陸上戦闘訓練を実施します。

#1 訓練：事前訓練

【期間】 令和6年2月27日（火）（天候不良の場合、28日（水）29日（木）を予備日）

【参加予定部隊】 自衛隊：陸上自衛隊 約10名（第1ヘリ団）
米軍：米海兵隊 約20名（CH-53×2機程度）

#2 訓練：着上陸訓練及び陸上戦闘訓練

着上陸訓練及び陸上戦闘訓練

【期間】 令和6年3月10日（日）及び11日（月）

【参加予定部隊】 自衛隊：陸上自衛隊 約100名（水陸機動団、偵察用ポート×5艇、CH-47×2機程度、AH-64×1機）
海上自衛隊 約200名（第1輸送隊 輸送艦×1隻）
米軍：米海兵隊 約250名（31MEU、偵察用ポート×5艇、CH-53×2機程度、UH-1×1機、AH-1×1機、F-35B×4機）
米海軍 約2000名（第11水陸両用戦隊、揚陸艦×3隻）（※米海軍は上陸しません）

※ 人数・機数は、現時点で予定されている数

訓練予定場所

着上陸訓練の訓練イメージ



訓練イメージ



偵察用ポートによる着上陸



ヘリコプターによる降着

補足事項等

- #1 訓練（事前訓練）では、大山グラウンドに日米共同で降着訓練を実施する予定です。（航空機は米のみ）
- #2 訓練（着上陸訓練及び陸上戦闘訓練）では、笠石海岸に偵察用ポートが着上陸し、大山グラウンドに日米輸送機が降着する予定です。降着後、大山野営場において陸上戦闘訓練を実施予定です。（大山での細部は2/2参照）
- 弾薬の装填及び空包の使用予定はありません。
- 訓練を支援する日米の管理要員等が期間の前後1週間程度をもって、準備・撤収を実施します。
- 訓練終了後、大山総合グラウンド（日米輸送機等）及び笠石海岸（偵察用ポート等）それぞれにおいて、装備品展示等を予定しています。

沖永良部島の使用について (2/2)



1 大山総合グラウンド及び大山野営場における訓練の構想

- 当初、F-35B×4機が地域の安全化のために飛行します。
- 次いで、陸自AH-64×1機、米AH-1×1機及び米UH-1×1機が、陸自CH-47及び米CH-53それぞれ1機程度ずつを先導して飛行します。
- 大山総合グラウンドに降着する航空機は、陸自のCH-47×2機程度及び米のCH-53×2機程度です。
- 航空機の降着後、軽火器を携行した陸自隊員×50名程度及び米海兵隊隊員×250名程度が展開する予定です。
- 大山総合グラウンドへ展開した日米の隊員は、大山野営場に移動し、同地域において、戦闘訓練を実施する予定です。この際、弾薬の装填及び空包の使用予定はありません。

2 訓練実施上の留意事項

- 公道を横断しますので、訓練実施中は安全員を配置した上で、上下線を一時的に通行止めにする予定です。
- 夜間訓練を計画しておりますが、20時までには訓練を終了する予定です。